

遺伝子組み換え作物は 環境保護に 貢献できるのでしょうか？



遺伝子組み換え作物はすでに環境保護に貢献しています。

遺伝子組み換え作物が環境によくないという話を耳にされるかもしれませんが、実際には、遺伝子組み換え作物はより少ない資源でより多くの生産を可能にするため、環境保全型の農業を実現しています。

環境に対するチャレンジ

20% 人口増加
2050年まで¹ =

多くの農作物が必要となります



食料



繊維



燃料

2 通りの解決法

1

森林や草原などの土地を農地に変え生産を増やす

2

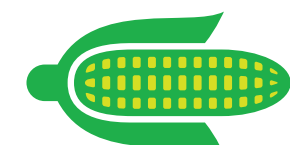
遺伝子組み換え作物などの農業技術を使い、現在の農地の生産性を向上させる

遺伝子組み換え作物はこの問題を解決します

2014年には遺伝子組み換え作物により
2100万ヘクタールの農地を減らしても

それまでと同じレベルの食料、燃料、繊維の生産が可能となりました。

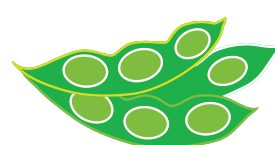
この面積は、米国アイオワ州とミズーリ州の全耕地面積、あるいは日本の全耕地面積の約5倍に相当します。²



トウモロコシ

890万

ヘクタール



ダイズ

770万

ヘクタール



ワタ

360万

ヘクタール



ナタネ

61万

ヘクタール

遺伝子組み換え作物が無ければ、現在の生産量を維持するために

世界全体でこれだけの農地が新たに必要になります。³

¹World population projected to reach 9.7 billion by 2050 (2015). Retrieved from: <http://www.un.org/en/development/desa/news/population/2015-report.html>.

²Brookes, G. and Barfoot, P. (2016). GM crops: global socio-economic and environmental impacts 1996-2014. Retrieved from <http://www.pgeconomics.co.uk>.

³Brookes, G. and Barfoot, P. (2016). GM crops: global socio-economic and environmental impacts 1996-2014. Retrieved from <http://www.pgeconomics.co.uk>.